

活断層の長期評価における課題

石山達也（東京大学地震研究所）

ポイント：

- 高分解能 LiDAR データの利活用、広帯域バイブレーター震源など新しい物理探査技術の活用等による、活断層の位置・形状・活動性の解明
- 多様な時空間スケールのすべりを考慮した、特に長大・複雑な構造を持つ活断層の長期予測
- 伏在活断層・海域活断層の長期評価には、位置・形状・活動性の解析・データの蓄積が必要

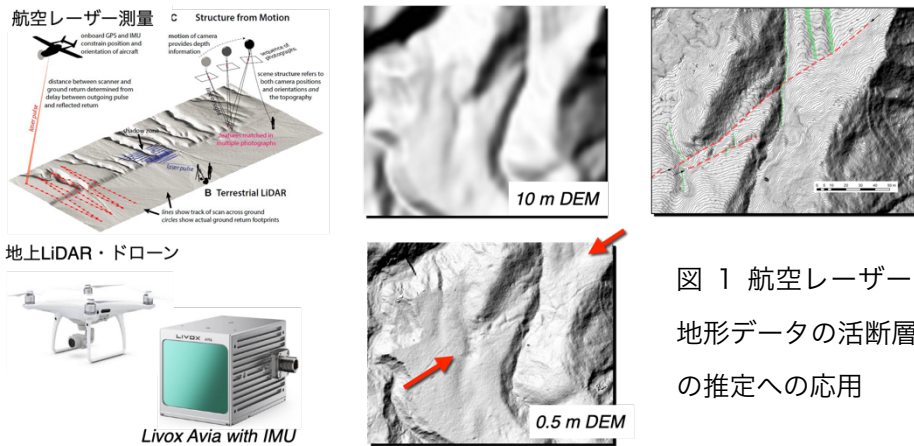


図 1 航空レーザー測量による高解像度地形データの活断層の詳細位置・活動性の推定への応用

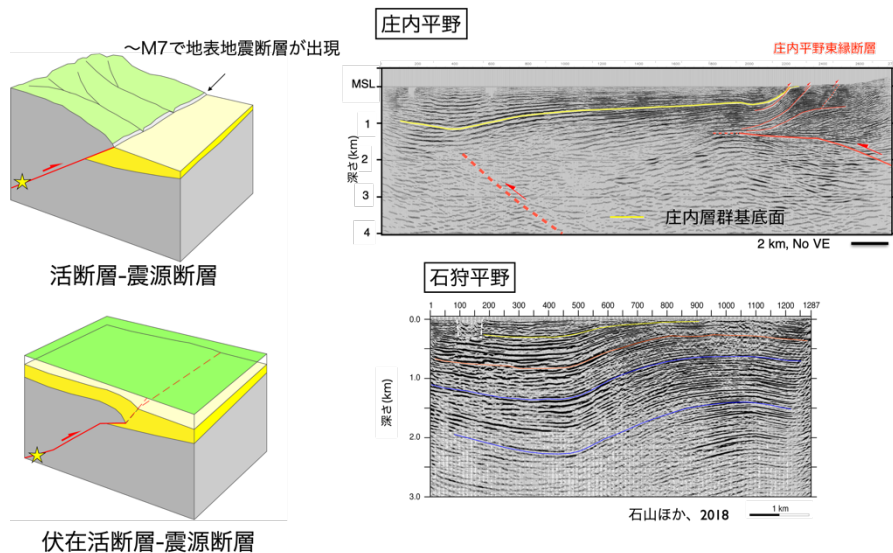


図 2 (左) 伏在活断層の模式図。(右) 日本海側の堆積平野で高分解能反射法地震探査により発見された伏在活断層。人口の多い堆積平野の伏在活断層の位置・長さ・活動度を解明することが長期評価上の重要な課題である。